

第4講 オホーツク流氷館の設立と経営（第3講は車椅子介助自走実習）

9686

1. 流氷館の立地と位置付け

1) 天都山

立地は天都山。文化財保護法による名勝に指定されている。北海道の名勝はわずか3か所、しかも20世紀中は道内唯一だった。名前の由来について網走市は、ブラジルで保管されていた命名書を根拠に第12代網走支庁長渡辺勘一の名言「天の都にいる心地がする」（後述「建替基本構想」）によるとしている。

【北海道の名勝一覧】

天都山 1938.12.14指定

旧岩船氏庭園（香雪園） 2001.8.13指定

ピリカノカ〔道内各地のアイヌゆかりの景勝地〕 2009.7.23指定、2014.3.18追加

2) 網走市総合計画における位置づけ

流氷館は網走市が設置した施設である。現在の指定管理者は（株）網走観光振興公社となっている。半官半民、いわゆる第三セクター。網走市が全体の83%を出資、直営にしないのは、市の本来業務ではない、人件費節減（＝従業員の賃金が市職員より安い）、柔軟な勤務態勢が可能（＝公務員より残業や休日出勤がなどをさせやすい）が理由。

道内自治体業務における民間活力導入の展望と課題 https://www.dbj.jp/reportshift/area/hokkaido_s/pdf_all/hokkaido2.pdf

天都山展望台・オホーツク流氷館条例 http://www2.city.abashiri.hokkaido.jp/reiki_int/reiki_honbun/m500RG00000603.html

網走市総合計画（2018～2027）に「流氷館」の文字列はなし。全体を見ても個別施設の名称はない。つまり個々の施設の重要度は記されていない。 <https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/soshiki/2/1114.html>

他方、以前の網走市総合計画（2008～2017）では、産業を記した3章「にぎわいと活力にあふれるまち」に流氷館と天都山は最重な観光資源として現れる。「にぎわい」は漢字言葉で表すと交流人口に近い。この当時の行政での流行語。 <https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/soshiki/2/1114.html>

第3章にぎわいと活力にあふれるまち 第3節観光〈1〉観光資源や関連施設の整備

1 みなと観光交流拠点施設の整備

2 大曲湖畔園地の整備

3 オホーツク流氷館の整備

4 名勝・天都山及び「感動の径」の景観整備

9686

休憩 1717から再開

網走市総合計画（2008～2017）に具体的地名が記された場所は上の1～4に限られる。

3) 網走市観光振興計画では

網走市が5年ごとに策定している観光振興計画の最新版「網走市観光振興計画2019*」 [keiei2024_4-2.pdf](#) はJTB総合研究所が調査受託したもの。流氷館の位置は網走観光の顔として評価している。具体的には天都山が「網走市の動向(4)網走市の観光資源・コンテンツ・食資源」のトップに置かれていること（28p）、「網走市観光の課題整理」で「(2)監獄と流氷以外の認知度不足」という指摘（43p）などである。

網走市観光振興計画 <https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/soshiki/17/9551.html>

*本来は2024年から新計画期間となるが新型コロナウイルスの影響で旧計画を改定延長して現用計画としている

2. 流氷館の設置への経過と展示改訂

1938 天都山が名勝に指定される

1951 北海道が展望台整備

1958 付近一帯が網走国定公園に指定される

1979 網走市が旧展望台施設を建設

1980 オホーツク流氷館開館 (1983 博物館網走監獄開館)

1985 流氷館増築(バブル景気 1986.12-1991.2) (1991 北海道立北方民族博物館開館)

2015 展望台およびオホーツク流氷館の新館開館(8月1日)

2020 1回目のリニューアルに着手、2022年1月オープン予定→コロナで2023年1月20日に延期

展示室の工事期間は2022年10月から2023年1月

天都山展望台・オホーツク流氷館_展示物改修基本構想(網走市 2013) [keiei2024_4-5.pdf](#)

公式サイトほかネットから削除された模様

オホーツク流氷館 展示リニューアル | 株式会社乃村工藝社 / NOMURA Co.,Ltd.

https://www.nomurakougei.co.jp/achievements/page/okhotsk_ryuhyo_museum/

【天都山展望台・オホーツク流氷館の展示リニューアル基本計画まとまる】網走の観光施設「天都山展望... - こんどうけんじ [元市議、現在佐賀県在住] <https://go2senkyo.com/seijika/59724/posts/262007>

3. 入館者数の推移 [keiei2024_4-3.pdf](#)

1) 年別

「天都山展望台及びオホーツク流氷館建替基本構想」(網走市 2013)によると年間入館者のピークは1991(平成3)年の384千人、それが2011年110千人と1/3未満に減少(8p)。ただし、流氷館のピーク1991年の38万人はこの年のみであり、バブル景気後半の1990-1994(平成2-4)は34万人前後で推移しており、流氷館の落ち込みはちょうど1/3となる。2000-2006(平成12-18)年は、25万人前後で推移しており、これはバブル景気以前と同水準。その後も25-29万人前後を保つも2007(平成19)年以降に急激に落ち込む。この原因や要因について教員は知らない。

季節別に見ると、冬は2005年に8万人でピーク、両端は2.5万人だが、春夏秋は1/3に減少。春(4-5月)秋(10-11月)各3万人だったものが、それぞれ1万人、夏期(6-9月)19万人が6万人。実数では夏の減少が大きい(9p)。「構想」では夏の減少幅が大きい理由を説明していない。

収入額はピークの1991年1億8100万円→2011年5300万円と1/3に満たない(11p)。

2) 比較

資料の網走市の観光入込客数では、ピークは1992年の230万人で、漸減した後、2008年に前年の167万人から137万人へと大きく減少し、2011年は127万人とピーク年の55%となっている(13p)。流氷館の入館者に比べ、網走市全体の観光入り込み客数はピーク、急激な減少とも1年遅い現象が見られる。

市内主要観光施設(水族館、流氷館、監獄)の入館者数を比べると、流氷館と監獄は同様の傾向を見せ、監獄でもピーク時の2002-2008年は600千人近い人数が、2010年では200千人強と約1/3になった(18p)。

道内の展望施設を見ると、建て替えによって入館者が倍増した例として道内屈指の観光地である函館市の五稜郭タワー、変化が小さく概ね横ばいのケース(稚内開基百年記念塔、オホーツクスカイタワー)がある(31p)。

4. 現状の施設（2015年開館）への建て替えの検討経過 [keiei2024_4-3.pdf](#) を引き続き使用

1) 構想案とその検討結果

表紙 写真は旧施設

目次 前提条件の整理 5p：施設の現況、入館者数、

天都山展望台及びオホーツク流氷館を取り巻く環境 13p：観光入込数、他施設との比較、天都山の位置づけ

天都山展望台及びオホーツク流氷館の立替基本方針 33p：場所の検討（川筋との比較）、コンセプト、整備方針

天都山展望台及びオホーツク流氷館立替基本構想の検討 38p：位置、建築、展示、飲食、売店、運営方式、想定入館者、公共スペースと収益スペース、収支見込み、リニューアル、道の駅、経済効果の試算。注目点：旧施設の場所と形状 40p、建築はC案（pp.47-48）を採用、施設のゾーニング 51p、機能と展示の検討 pp.52-53、入館者数の見込み 56p、管理費見込み pp.59-60、

経済効果の試算

建設までのスケジュール

余談だが、「構想」が確定する前までは、天都山展望台及びオホーツク流氷館建替基本構想（案）がネットで公開されていたが、現在はリンク切れで見られない。日本のウェブサイトは古い情報を蓄積してアーカイブとして利用することなく削除する。行政に顕著だが、新聞や雑誌、民間、はては博物館も同様である。これは日本のネット文化の大きな欠点欠陥である。

2) 建替の効果

流氷館は2015年8月1日にリニューアルオープンした。建替効果は高く、2年7か月で有料入館者50万人を達成した*。「構想」の収支計画では2年半で399千人であるので予定の1.25倍の入館者数を得たことになる。理由の一つは計画時点よりも外国人観光客の伸びが大きかったことだが、他にも理由があるのかも知れない。

*オホーツク流氷館 天都山展望台 - 投稿 | Facebook <https://www.facebook.com/ryuhyokan/posts/1837493176275210/>

3) 旧施設との比較

新設・変更点

みやげもの屋の位置 高層階から地上へ

カフェ 観光客が他に無いから入る店、から、市民がおしゃれだから行く店への転換

観光情報提供スペース 書き込みコーナーの充実、web 2.0の現実化、自撮りを意識した仕掛けもできた

展望台のガラス囲い おなじ高さ（床面）で屋外にも出られる

階段 螺旋（らせん）階段から折り返し一方通行へ

映像 中央の流氷下の映像、奥の5面は旧展示継承

継続点

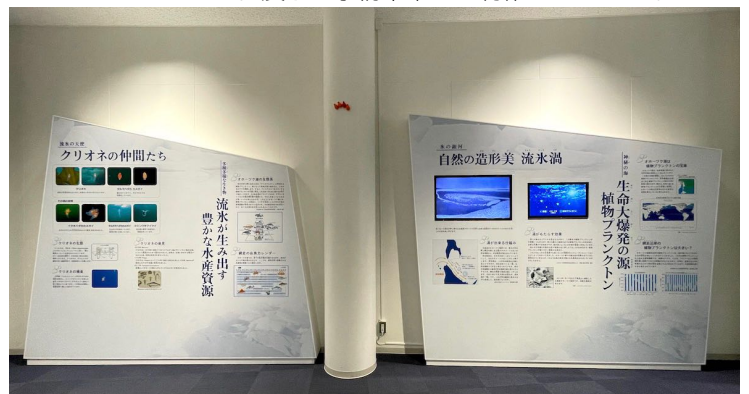
流氷体感室 本物の流氷の通年展示、冷凍タオル

オホーツク海の水族の飼育 ダンゴウオやクリオネ

無料の展望台（旧施設ではガラス囲いの無い

解放テラスは一段低い位置にあった）

旧展示の学情卒業生が制作したグラフィック



4) その他

「基本構想（案）と基本構想（確定）比較 関係部分のみ抜粋」 [keiei2024_4-4.pdf](#)

「天都山展望台・オホーツク流氷館 展示物改修基本構想」 [keiei2024_4-5.pdf](#)

[オホーツク流氷館への学生の意見と感想（2018年見学）.pdf](#)

[オホーツク流氷館リニューアル／生まれ変わる流氷館 | 経済の伝書鳩.pdf](#)